

中野区子ども・子育て支援事業計画の中間の見直しに向けた検討課題

1 目標Ⅰ

(1) 妊娠・出産・子育てトータルケア事業の推進（取組みの柱1）

○妊娠前の不妊等にかかる相談等も含め妊娠・出産・子育て期の養育環境をきめ細かく把握し、ライフステージ、家庭環境の変化、子どもの発達等に応じた支援に早期につなげる、トータルケア体制を確立する必要がある。

○トータルケア体制を進める基盤として、保護者等が必要な情報を必要なときに把握できる環境整備や、関係機関が妊娠前・妊娠期からの支援情報を迅速、的確に共有できるしくみを構築する必要がある。

◆結婚前・妊娠前から子育て期につながる切れ目ない支援・・・資料3-1

◆妊娠・出産・子育てトータルケア事業の流れ・・・資料3-2

(2) 児童相談所設置を見据えた虐待対応力の強化（取組みの柱3）

○虐待が深刻化する前の早期発見・早期対応をはかるため、日頃から子どもと接する機会の多い、教育・保育施設、学校、児童福祉施設、病院等と情報共有を密にするなど、保健・福祉・教育・医療等の連携を強化する必要がある。

○児童相談所の設置にあたり、対応事例の分析・検証、ノウハウの蓄積等を進める。また、専門的な対応ができるよう、適切な人材確保や育成など、虐待対応力を強化する必要がある。

○（仮称）総合子どもセンターの設置にあたり、虐待等専門対応、教育相談、若者支援、適応指導、就学相談機能を効果的に連携させ、子ども期から若者期の本人や家庭における課題についての専門相談、支援、措置、家庭・社会復帰までを総合的に支援できる体制を構築する必要がある。

◆現行の子ども・家庭相談の流れと児童相談所設置後との比較・・・資料3-3

◆（仮称）総合子どもセンターにおける若者相談・支援フロー例・・・資料3-4

◆若者の課題に対応する各種機関・サービス例・・・資料3-5

2 目標Ⅱ

(1) 選択できる子育てサービス等の充実（取組みの柱2）

○就労家庭や在宅育児家庭、低所得世帯など、就業の有無や家庭環境にかかわらず、すべての家庭がライフスタイルに合わせた子育てサービスや教育・保育施設を選択できる環境の整備が必要である。

3 目標Ⅲ

地域の子育てコミュニティづくり支援（取組みの柱1）

○地域の間関係の希薄化が進む中、地域全体で子どもの育ちを支えていくため、地区懇談会、次世代育成委員等地域団体のネットワーク強化のあり方を検討する必要がある。また、人材不足を解消するため、後継となる人材を育成していくことが必要である。

○保護者の孤立感、不安感を解消し、安心して子育てができる環境を整えるため、すこやか福祉センターやキッズ・プラザ、保育園、学童クラブ、商店街など、身近な場所で仲間づくりや相談の場となる乳幼児親子の居場所を拡充する必要がある。

○利用者支援員を配置し、子育てひろば等を活用して、各家庭のニーズに応じた子育てサービスを提供し必要な支援につなげられるよう、コーディネート機能についても充実させる必要がある。

◆子どもの育ちを支える地域づくりについて・・・資料3-6

※「就学前教育に係る検討のとりまとめ」において区の果たす役割として検討した視点

- 教育・保育の質の向上
- 保幼小連携による教育の推進、保護者・地域との連携の推進
- 特別支援教育の充実

※次回の検討課題について

- ・障害児支援
- ・子ども・子育て支援事業計画の中間の見直し検討案